3．ボランティアの役割

1）ボランティアが死という現実を受け止め、相手がこうしてほしいということを待って、相手がしたいことをする。

2）そのためには、自分を良く知る。自分の喪失（自分は何を失っているのか）を理解する。

3）ボランティアは、「何かをしよう」と思うと長続きしない。人に優しくすることや、人に何かをすることは大切であるが、ボランティアの大切なことは、相手に注意を向けることである。

4．ボランティアの領域（3領域）

1）Volunteer Visitors＝患者や家族を訪問する

2）Educate Volunteer ボランティア（一般市民や、関心のある市民、医療系の学生に対しての教育でもある）＝ボランティアプログラムは、教育啓発も使命である。

3）Change Culture（死に対する Avenue の文化を変えていく）

5．Spiritual Careについて

by Clarence Liu（チャプレン）

Pay Attention＝注意を払うこと

1）そのものを見るようにする

2）見逃さずに見ていると自然発生的に、患者が何を欲しているのかみえてくる、それがみえてくるまで待つ

3）死の恐怖を追いやろうとするのでなく、悲嘆の気持をしっかり受け止める、そこにいてあげることの大切さ。

4）若い頃は皆、死を受容しなくてはならないと思っている。しかし、自分なりの形で死を迎える。その人なりの形で最期を迎えられるようにすること。

5）怒りをもって死を迎える人、ほっといてくれと思う人、それらを受け止めること。

6．ボランティアについて

by Caroline Odo（ボランティアコーディネーター）

ボランティア登録への手続き

1）面接時に以下の文書を渡す（ボランティアの概要説明）

ボランティアは何をするのか？

どうやったらボランティアになれるのか？

2）面接時に質問すること

① 何に興味があるか（患者とのマッチングのため）音楽？野球？

② どなたか近親者でなくなった人がいるか確認

面接時にあなたにどう影響を与えたか？そのことをどう思いますかと質問する

悲嘆にどう対応したかも確認

（注意）最近身近な人を亡くした場合は、1年間は対象外（ボランティアとして活動しない）

3）ホスピスプログラムの説明

・ホスピスハワイのケアのサービスを図で説明⇒「ケアの単位は家族と患者を1つの単位であると説明」

・患者と家族に対し、看護師の担当が決定し、この看護師がケースマネジャーの役割を果たす

・看護師の仕事（疼痛の管理、予期悲嘆も看護師の役割）についても話す。

・サービスを受けることが決まった場合、患者と家族に資料一式を渡すこ

とを伝える。なお、家族に渡す資料の中には、悲嘆のステージも説明されている。（実際に愛する人が亡くなる時に自分にどのようなことが起きるのか予測できるようにする）

・その他の看護師の役割の説明⇒患者の主治医と連絡をとりつづけること
　→痛みが強くなった場合等、患者の変化を主治医に伝える。

・法律に関すること：ソーシャルワーカーが担当していることを伝える。

⑥ 法律に関する手続きのほか、緩和ケア・ホスピスケア開始時は不要だったが、車椅子が必要になった場合に障害者用の駐車場が使用可能になるよう手続きをすることもソーシャルワーカーの仕事である。

⑦ 税金の支払いに関しても、患者のサポートを行う

⑧ ソーシャルワーカーは地域の資源を探してあげる（リビングウイル、委任状、どこの葬儀屋を使うか、家族が決めることをサポート）

・葬儀はどうしてほしいのか、患者にも意向を聞くように家族に伝える

・看護師とヘルパーが患者のケアの仕方を常に家族におしえていく

・家族は、患者が亡くなっていなくても、悲嘆の真っ只中にあるとどうしても集中できず、覚えきれないことも多いので、書いたものにして渡すようにしていることを伝える。

・チャプレンの仕事について説明（患者の中には、死ぬことを恐れている患者がいる。自分の心の中で自分の内面で何が起きているのかチャプレンの手を借りてはじめてその気持ちを表現できる人もいる。チャプレンは宗教を誰におしつけることもしない。信仰心のある家族に対して、宗教的な事柄については、神父や牧師、お坊さんなどその方達を呼ぶよう奨励するのがチャプレンの仕事。）

・アートセラピストの仕事について説明（自分の気持ちを表に出さず、すべて自分の内に閉じ込めて我慢しているタイプに有効である。アートセラピストが一緒になって絵を書く。明るく、美しい絵を表現した場合、死に対して受け入れられているかわかる。ところが、暗い絵で怒りを表現した場合、まだ、気持ちが落ち着かれていないようですね。と伝える。そして今どういう気持ちを感じていますか、どうして気分を害してしまったか、まだ若いのに病気になってしまったからでしょうか、もっといろんなことをお話してくださいと話す。）

4） ボランティアの仕事

・ボランティアが実際に患者をどう介護したらよいかわからない。という場合、ヘルパーがベッドから腰を痛めずに車イスへ移動の仕方を指導する。

・その後、患者が寝たきりになった場合、着替えやおむつ交換、シーツ交換も指導する。

5） 遺族へのプログラムについて

１年間は家族のフォローアップをする。特に結婚５０年を経た配偶者が一番孤独を感じる時は、葬儀後である。

電話で「外にでかけるようになりましたか？」と声をかけたり、遺族がうつにならないように注意する。

6）『遺族に対するサポートプログラム』

・ホスピスハワイのオフィスに毎月１回
・日中の１１時にキャッスルメディカルセンターで開いている。
・パールシティにある病院で夕方もしくは夜にサポートプログラムが開かれている。その他、子どもに対するサポートプログラムもある。（年齢別にグループ分けしている今、どういうことを感じているか、病気について伝えられていたか、をこのような境遇になったのは自分だけだと思っていたが、自分だけではないんだと知った。ここにきてよかった。）
・１週間のうち４時間、ボランティアが行くことで４時間家族がレスパイトできる。

ⅱ）ボランティアに関することでの質疑応答

1）ボランティアが患者のもとに行くのはいつから？
⇒結核の検査をして、結核がないとわかれば、３回目のプログラムが終了直後に振り分けることもある。まず、面接をし、その後プログラム中はずっと観察をする。あとは、ボランティアコーディネーターの直感である。

2）患者や家族からのクレームはあるか？
⇒ある。その場合は、ボランティアを変える。当事者のボランティアにも説明する。

3）ボランティアプログラムについて：パリアンでは１２時間、ホスピスハワイは２０時間、この時間については、妥当である。パリアンでは、１年後アドバンスドコースを開発しており、訪問する場合はこのアドバンスドコースを受講する。それを含めると２０時間になる。

4）CEO（Kenneth Zeri）からの質問：その１年間は何をしているのか。
⇒手紙を書いたり、デイケアをしたり、グッズをつくる。ベッド下げのカバーをつくったりしている。

目的２．　ボランティアを養成するための研修プログラムの構成要素を明らかにするため、３回講座のプログラム研修を受けた。その結果、ホスピスハワイボランティアトレーニングマニュアル及びボランティアトレーニングプログラムが明らかとなった。以下の通りである（添付資料４），（添付資料５）。また、研修を受けるにあたり、ボランティアコーディネーターであるCaroline Odoからボランティアプログラムについてインタビューを行った。その結果を以下に示した。

6月28日水曜日12：00～　於）Hospice Hawaii
ボランティアについて
by　Caroline Odo（ボランティアコーディネーター）

ⅰ）『ホスピスハワイ　ボランティアトレーニングマニュアル』（添付資料４）

Ⅰ．ホスピスハワイトレーニングプログラムの目的
Ⅱ．なぜ、ホスピスボランティアか
Ⅲ．ホスピスの歴史的背景
Ⅳ．ボランティアコーディネーターからの歓迎の手紙
Ⅴ．ホスピスハワイの概要

Ⅵ．ホスピスハワイの組織図
Ⅶ．ホスピスケアの考え
Ⅷ．ボランティアの役割
Ⅸ．守秘義務のフォーム
Ⅹ．患者と家族の義務と権利
ⅩⅠ．疼痛と症状コントロール
ⅩⅡ．死に近づいた時のサインと症状
ⅩⅢ．ボディメカニクスと気をつけること
ⅩⅣ．心理社会的見解
ⅩⅤ．文化的な視点
ⅩⅥ．死別
ⅩⅦ．スピリチュアルの問題

ⅱ）『ホスピスハワイ　ボランティアトレーニング　プログラム』（添付資料５）

1日目（4.5h）17：30-22：00

17:30-18:00　受付＆軽食
18:00-18:10　オリエンテーション
〔ボランティアコーディネーター〕
18:10-18:25　ホスピスハワイの歴史
〔ＣＥＯ〕
本チームの目標と目的
18:25-19:00　守秘義務
〔ボランティアコーディネーター〕
緊急連絡先（ボランティア中に何かあった場合）
撮影承諾書（写真をとっていいか、ニュースレターに掲載されてもよいか）
ツ反（無料で結核のテストを受ける）
19:00-19:45　コミュニティビルディング演習
〔ボランティアコーディネーター〕
1）円になり椅子に座り、順に自己紹介
2）2分間：２人１組で自己紹介
⇒【目的】知らない人と話す練習
19:45-20:00　休憩
20:00-21:30　死にゆく過程でのスピリチュアルケア
〔チャプレン〕
1）２人１組になり、今までで１番悲しかったことについて話す
2）何も言わずにただじっと聞く
⇒【目的】傾聴
21:30-22:00　質問・宿題
終了

2日目（9.5h）7：30-17：00

7:30-8:00　受付＆朝食
8:00-8:10　瞑想
〔ボランティアコーディネーター〕
8:10-9:40　死と死ぬことの心理社会的プロセス
〔ソーシャルワーカー〕
【演習】４つのカテゴリーに関する喪失体験を疑似体験し、患者と家族の気持ちを共感する目的で行う
9:40-11:10　死ぬときの疼痛と症状コントロールについて
〔引退看護師〕
11:10-11:25　休憩
11:25-12:25　遺族のお話（パネルディスカッション）
〔3人の遺族〕
12:25-13:25　ランチ
13:25-15:00　ライフライン
〔ボランティアコーディネーター〕

15:00-15:15　休憩
15:15-16:15　死に直面するとき
〔ボランティアコーディネーター〕
16:15-17:00　宿題
〔ボランティアコーディネーター〕
本日のふりかえり（相互理解・情報交換）、まとめ
終了

3日目（9.5h）7：30-17：00
7:30-8:00　受付＆朝食
8:00-9:30　傾聴　〔ボランティア〕
9:30-9:45　休憩
9:45-10:40　ボランティアの役割
〔ボランティアコーディネーター〕
仕事の説明
書類の作成
10:40-11:40　ボランティアのお話（パネルディスカッション）
〔ボランティアコーディネーター〕
11:40-12:40　ランチ
12:40-15:00　患者ケアと安全性
〔HHA 看護助手〕
Infection Precautions
15:00-15:15　休憩
15:15-16:15　ボランティアしてその後にくるもの
〔ボランティアコーディネーター〕
同意書
トレーニング後の参加（継続教育）
修了式
16:15-17:00　ふりかえり、評価、みんなでわかちあう
〔ボランティアコーディネーター〕
終了

プログラム　受講時間：計23時間、
参加費用：無料

iii）Hospice Hawaiiチームケアメンバーへのヒアリング結果

ボランティアプログラムについて

by　Caroline Odo（ボランティアコーディネーター）

1）ボランティアプログラムは、教育啓発も使命である。
2）Medicare では、ホスピスケアの５％はボランティアであることといった詳細が決められている。連邦法で決められている。＝１人の患者さんに 100 時間ケアをしたとすると、そのうちの 5 時間以上はボランティアが担当する。

目的３．Hospice Hawaiiでの実際の活動を理解するため、ホスピスハワイカイルアホーム（ホスピス病床）見学を行った。そこで、１．カイルアホームの概要、２．スタッフの募集方法について、３．スタッフへの教育について、４．ボランティアの活動内容について説明を受けた。最後に、ボランティア歴８年の実際のボランティアへのインタビューを行った。その結果を以下に示した。

6月29日木曜日8：30～
ホスピスハワイカイルアホーム見学

１．カイルアホームの概要

1）構成：看護師、准看護師、ヘルパー、ソーシャルワーカー
2）ベッド数：５
3）２４h開放（いつでも来たい人が来れるようになっている）
4）１室の設備：電動介護ベッド、テレビ、

電話、クローゼット、エアコン、トイレ

5）食事：月曜～金曜は調理の人が来る、土日は冷蔵庫

6）施設：普通の家を改築

7）施設料：1ヶ月6000$/1人 ⇒ 1日230$（保険に該当しない人は払うのが大変）

2．スタッフの募集方法について

1）新聞の求人欄で

2）面接時には、資格はもちろんのこと、家で看取った経験を確認

3）カイルアホームの Ns の賃金は、訪問 Ns より低い。

3．スタッフへの教育について

1）何を学びたいかスタッフのニーズを聞き、それに準じた人を呼んで講習する

2）介護をするスタッフは1年に12h以上講習を受ける義務がある

3）1ヶ月に2回、チームミーティングを行う（全患者の確認）

4）病院などのセミナーに参加

5）保険会社が開催するフェアに参加

4．ボランティアの活動内容

1）患者ケア

2）部屋の修理

3）窓拭き

4）掃除

5）おむつの換え

6）お話

7）食事の手伝い

8）買物

9）散髪　etc.

5．実際のボランティアへのインタビュー

〔ボランティア歴8年の女性（オーストリア・ウイーン出身）〕

1）ボランティアで得たこと

i．どうやって命が終わっていくのか学んだ

ii．患者や家族の価値を学んだ。自分の時に活かせる

iii．どうやって人を助けていけるかを学んだ

iv．1人1人ちがうから判断しないこと、我慢することを覚えた

v．患者や家族に対し聞くことを覚えた

2）感想

その時がきたらここで最期を迎えたい

目的4．Hospice Hawaiiでの実際の活動を理解するため、臨床チームメンバーに訪問同行した。

その際、ソーシャルワーカー、看護師、HHAに同行し、4つの事例を経験することができた。その結果を以下に示した。

6月30日金曜日8：30～

臨床チームと在宅同行

ソーシャルワーカーに同行

ケース1．心不全（利尿剤をうまくコントロールすればすぐに亡くならない）

看護師に同行

ケース2．Nsの仕事について：症状が安定していれば血圧は週に1回だけ。

症状確認⇒症状が出ていれば薬の調整（直接的なことはほとんどしない。血圧のみ）NsはDrの目になり耳になる。

ＨＨＡ（ホームヘルスエイド）に同行

（①ナーシングホームにいる女性と、退院直後、家にいる女性の2ケース訪問）

ケース３．HHAは、ケア（日常生活の援助）をしていた。皮膚がんの創傷のコットンの換えを行っていた。

ケース４．ＨＨＡがやりがいをおぼえている。心理学の修士を修めた女性が、人間をケアすることで学んでいる。ケアをすることに興味を持ち、Nsになるために学生になることとなった。

目的５．　ボランティアコーディネーターの教育及び役割について３回講座のプログラム研修を受けた。また、研修を受けるにあたり、ボランティアコーディネーターであるCaroline Odoからボランティアプログラムについてインタビューを行った結果、以下の２点から検証を行った。

Ａ．ボランティアコーディネーターの教育について

本研修を通して、ボランティアコーディネーター（Caroline Odo）にインタビューした結果、ホスピスハワイにおいては、ボランティアコーディネーターは特殊な教育を受けていなかったことが明らかとなった。

しかし、いろいろなＮＰＯでボランティアコーディネーター養成講座があるため、在宅ホスピスに特化した講座ではないが、そのような場を教育の場として用いており、また、ボランティアリーダーのネットワークがあるため、そういった場も活用し、資質の向上に努めていることが明らかとなった。

Ｂ．ボランティアコーディネーターの役割について

ボランティアコーディネーターは、観察力の優れている人が望ましく、実際に、ホスピスボランティアプログラム時に、受講者の一人一人を注意深く観察し、ボランティアとしての資質をチェックしていた。ボランティアコーディネーターは、まずもって「思いやりのある人」、「愛情を持って接することができる人」であること。また、報告書を書きながら、電話をとり、ボランティアの問い合わせについて説明をするといった、複数にわたる作業を平行して行うといったマルチタスクな仕事にも対応できる人が望ましい。

また、ボランティアコーディネーターがボランティアをしたい人の拒否はできないため、あるボランティアが、訪問に不適切だと判断した場合は、訪問以外のボランティア活動に参加するよう導く能力が必要である。

すなわち、ボランティアコーディネーターは、ボランティアの適性を判断できる人であらねばならない。その場合の判断方法とは、ボランティアプログラムの実施前・中・後にそれぞれ評価をし、最終的に総合的な評価を行うことである。

詳しく述べると、ボランティアプログラム実施前に、「ボランティア申請用紙」（添付資料６）を配布し、受講者に記入させる。

なお、「ボランティア申請用紙」とは、名前や住所といった連絡先のほか、資格の有無や、ボランティア可能な時間、話せる言語、身元保証人等といった対象者の属性と、「ホスピスハワイでのボランティアになることにどうして関心を持ったか」、「近親者がここ最近亡くなっているか否か、またそのことがどういう影響を及ぼしたか？」、「特技や趣味」といった自由記述、実際のボランティア

の活動のうち関心のあるボランティア活動への希望をチェックする用紙である。

そして、プログラム実施前に面接を行い、ボランティアスタッフのアセスメントをし、申請用紙に評価コメントを残していた。

実施中には、受講者の表情や反応、発言、行動を適宜観察する。

プログラム実施後には、「ボランティアプログラム受講後のインタビューサマリーフォーム」（添付資料７）を用いて評価を行っていた。

なお、「ボランティアプログラム受講後のインタビューサマリーフォーム」とは、１．終了後の面接時の受講者の全体的な様子の評価、２．その人自身のこと（①性格・②成熟度・③声のトーン・④声の音量・⑤コミュニケーション能力・⑥ふるまい／表情・⑦ボランティアへの自信・⑧適応能力／危険覚悟等）といった５段階のチェック項目のほか、３．患者や家族とやっていくことのうちできるか否かのチェック、（①異なる信仰に対して・②異なる生活スタイル対して・③異なる性別に対して、④タバコを吸う人の家、⑤ペット（猫、犬、鳥など）、⑥ボランティアが患者を自分の車か患者の車で移送できる）、４．ボランティア／インタビュアーのお互いの関係・相互作用を評価するため「しっかり集中して適切に答えていたか」チェック、５．個々人について（身体・社会・環境面）を自由記述していた。記述内容は、①「身体的な制限がありますか？」、②「ホスピスハワイでボランティアをすることで何を得たいと期待していますか」であった。最後に、６．インタビュアーが「ホスピスサービスでボランティアを手助けすることに焦点をあてた際のインタビュアーの印象（他のチームの人とうまくやっていけるかの印象）」を自由記述し、評価していた。

そして、プログラム後「ボランティア活動のタイムシート」（添付資料８）を用いて、実際に活動する場合、詳細に活動を記述していた。

以上のことから、ボランティアコーディネーターは、さまざまな仕事があるが、ボランティアの資質を向上するためにも、一人一人のボランティアをよく観察し、よくコミュニケーションをとっていることが明らかとなった。ボランティアがホスピスハワイのチームの一員として活躍するためには、ボランティアコーディネーターのコミュニケーション能力が重要であった。

D. 考察

目的１．について、ｉ）Hospice Hawaiiチームケアメンバーへのヒアリング結果及び、ⅱ）ボランティアに関することでの質疑応答の結果、ボランティアは、１年毎の登録でなく、１度登録後はやめると言わない限り登録はつづくことが明らかとなった。このことから、ボランティアがまず1年間は行ってみて、コミットメントを高めていくことの重要性を示唆され、またミーティングをもって評価することで少なくとも1年間は行い、そして引き続き継続していくことがボランティアの持続可能性につながっていると推察された。

また、インタビューしたボランティアコーディネーターは特別な養成を受けてはいなかった。全米ホスピス協会などではコーディネーターの養成（於：メインランド）があることが明らかとなった。その他、ボランティアリーダーのネットワークがあり、いろいろなＮＰＯでボランティアコーディネーター養成講座が開催されており、その場が教育の場となっていることがうかがえた。

ボランティアコーディネーターの資質としては、思いやりのある人、愛情を持って接する人が望ましいことが明らかとなった。ボランティアコーディネーターの仕事はマルチタスクであった。すなわち、報告書を書きながら、電話をとり、ボランティアの問い合わせについて説明をするといった、複数にわたる作業を平行して行っていた。そのような状況でも、ホスピスボランティアは特殊であるため、思いやりのある人、愛情を持って接する人が望ましいのであろう。

他のホスピスでのボランティアコーディネーターの情報を持っているか、若いボランティアコーディネーターはいるかと尋ねたところ、ボランティアコーディネーターと相互の情報交換はしているがホスピスボランティアコーディネーターは経験年数の長い人が多く、若い人は少なということであった。これはホスピスボランティアの特殊性、そしてホスピスボランティアコーディネーターの総合的な職務を含めて経験年数の長い人が多いと考えられる。

ホスピスボランティアは、交通費含めてすべて無償であった。ただし、万一の場合は、NHPO の保険でカバーできる。すべてのスタッフが保険に加入していた。9年間行っているが、該当は 1 件のみであった。アメリカのボランティアに対する保障があるため、そこで保証されていた。また、ボランティアトレーニングプログラムは無料であった。運営費用は、ホスピスハワイで予算を立てて行っていた。ホスピスハワイでは、多額の寄付があり、予算的にも運営可能であるが、日本では寄付行為がアメリカほどベーシックになっておらず、日本でのボランティア講座の運営費用に関しては今後の課題であることが示唆された。

目的2．について、ⅰ）『ホスピスハワイボランティアトレーニングマニュアル』及びⅱ）『ホスピスハワイ　ボランティアトレーニング　プログラム』、ⅲ）Hospice Hawaii チームケアメンバーへのヒアリングの結果、本プログラムは、学生のためのボランティアプログラムでもあった。インターネットや学校、新聞などで募集を行い、これらのプログラムに参加することで、医学部等への啓発にもなり、地域をもかえていくことが示唆された。

ボランティアを選ぶ基準（ボランティアの資質）としては、性格のよい思いやりのある人、コミュニケーションスキルが優れている人、傾聴できる人であることが明らかとなった。また、本研究の事例検証の一部に、実地研修でのデータとの類似例の一つとして、米国地方都市における在宅ホスピスボランティアの選考と研修について参照したところ、ほぼ同様のプログラムの構成要素であったことがうかがえた（参考資料参照）。今後、さらなる文献考証を続け、トレーニングプログラムの妥当性の検証を行いたいと考える。

目的3．について、カイルアホーム見学の結果、説明を受けたスタッフの募集方法について、カイルアホームの看護師の賃金は、訪問看護師より低いことが明らかとなった。しかし、時間の融通が利くため、その利点が魅力で選ぶ看護師が多いことが窺えた。実際にカイルアホームでボランティアをしている女性（ボランティア歴8年の女性）へのインタビューの結果、ボランティアをしたことで、どうやって命が終わっていくのかを学んだと言っていた。これはまさにend of lifeの教育であり、ボランティア活動をすることでDeath Educationにも自ずとなっていることが

示唆された。

また、患者や家族の価値を学び、１人１人ちがうから判断しないこと、我慢することを覚えたというコメントから、ボランティアトレーニングプログラムでのねらいがしっかり根付いており、トレーニングプログラムのねらいが達成されていると推察された。最後に、感想で「その時がきたら自分もここで最期を迎えたい」というコメントは、カイルアホームが充実した施設であり、かつ、そこでのボランティア活動も肯定できていることであると考えた。

E．　総括

本研修は、2006年６月２８日から７月１日まで、ホスピスハワイにて１．在宅ホスピスケアにおけるボランティア活動の構成要素を明らかにすること、２．ボランティアを養成するための研修プログラムの構成要素を明らかにすること、３．ホスピスハワイカイルアホーム（ホスピス病床）見学、４．臨床チームメンバーの訪問同行、５．ボランティアコーディネーターの教育及び役割を知るという、以上５つの目的を達成するために行った。

その結果、以下のことが明らかとなった。

１．　在宅ホスピスケアにおけるボランティア活動について

ボランティアは、まずボランティア研修プログラムを受講し、そこで得たことから、専門職とチームを組んで、患者や家族に対し、「何かをするのでなく、存在すること、何かやるのでなく、そこにいてあげること」を大切にし、Spiritual Careに携わる。また、実際の活動としては、患者をベッドから車イスへ移動させたり、患者が寝たきりになった場合、着替えやおむつ交換、シーツ交換も行う。それ以外にも、趣味や特技を生かして患者や家族のサポートを行う。具体的には、患者ケアや、部屋の修理、窓拭き、掃除、おむつの換え、お話、食事の手伝い、買物、散髪などである。また、家族に対するサポートプログラムとして、１週間のうち４時間、ボランティアが行くことで４時間家族がレスパイトできる。また、遺族への１年間のフォローアップも重要な活動の一つである。電話で声をかけたり、遺族がうつにならないように注意する。

２．　ボランティアを養成するための研修プログラムについて

『ホスピスハワイ　ボランティアトレーニングマニュアル』から、「研修プログラムの目的」を筆頭に、「なぜ、ホスピスボランティアか」、「ホスピスの歴史的背景」、「ボランティアコーディネーターから」、「ホスピスハワイの概要」、「ホスピスハワイの組織図」、「ホスピスケアの考え」、「ボランティアの役割」、「守秘義務のフォーム」、「患者と家族の義務と権利」、「疼痛と症状コントロール」、「死に近づいた時のサインと症状」、「ボディメカニクスと気をつけること」、「心理社会的見解」、「文化的な視点」、「死別」、「スピリチュアルの問題」といった項目の必要性が明らかとなった。また、研修トレーニングを受講したことで、実際の研修プログラムの構成要素が明らかとなった。（前述の『ホスピスハワイ　ボランティアトレーニング　スケジュール』を参照のこと）

３．　ホスピスハワイカイルアホーム（ホスピス病床）見学

ホスピス病床を見学し、カイルアホームの概要やスタッフの募集方法について、スタッフへの教育について、ボランティアの活動内容について理解できた。また、実際に活動し

ているボランティアに「ボランティアで得たこと」などインタビューすることができた。

4．　臨床チームメンバーの訪問同行

ホスピスハワイで活動しているソーシャルワーカー、看護師、ＨＨＡに同行し、患者・家族の住む家に訪問した。

5．　ボランティアコーディネーターの教育及び役割を知る

ボランティアコーディネーターの教育については、ホスピスハワイにおいて特殊な教育をなされていなかったが、ＮＰＯ等でのボランティアコーディネーター養成講座に参加し、教育を受けていることが明らかとなった。ボランティアコーディネーターは、観察力の優れている人が望ましく、思いやりがあり、愛情を持って接することができる人であることが重要なことである。また、コーディネーターは、マルチタスクな仕事であるが、ボランティアの資質を向上するためには、一人一人のボランティアをよく観察し、よくコミュニケーションをとること、ボランティアがホスピスハワイのチームの一員として活躍するためには、ボランティアコーディネーターのコミュニケーション能力が重要であることが明らかとなった。

Ｆ．　健康危機情報

特記事項なし

Ｇ．　研究発表

「研究成果の刊行に関する一覧」にまとめて記載

Ｈ．　知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし

（添付資料1）

Volunteer Training Schedule
Hospice Hawaii & The Pallium
Dates: June 28 to July 1, 2006
Revised Schedule June 16, 2006

Objectives:

1. Identify the components of a volunteer program in the hospice home care setting.
2. Identify the components of a volunteer training program, including:
   a. Recruitment
   b. Interviews
   c. Training classes and objectives
   d. Post-training interviews
3. Make a site visit to the Hospice Hawaii Kailua Home (Hospice residence).
4. Make home visits with a clinical team member.

Hospice Hawaii will provide the attendees with the training manuals and interview resources, etc.

Tentative Schedule

Date/Time	Activity
Tuesday, June 27, 2006 8:45 AM	Arrive Honolulu International Airport (Ken Zeri to meet you there)
5:30 PM	Dinner at the Outrigger Canoe Club
Wednesday, June 28	
Morning	Breakfast on your own, sleep late, enjoy the beach
12:00 – 3:00 PM	Lunch at Hospice Hawaii Classes: Hospice in USA: Ken Zeri Overview of Volunteer Program: Clarence Liu
5:30 - 10:00 PM	Volunteer training class at Hospice Hawaii Office Light dinner provided at training
10:00 PM	Back to hotel
Thursday, June 29	
Morning	Breakfast on your own
8:30 AM to 11:00 PM	Pick up at hotel: Tour Hospice Hawaii Kailua Home
12:00 – 3:00 PM	Lunch at Hospice Hawaii Class: Details of Volunteer Program: Caroline Odo, Volunteer Coordinator

3:00 – 4:00 PM	General discussion of topics of interest to visitors: Ken, Clarence, Caroline, others as needed
4:00 PM	"Pau Hana" (Done work) Dinner on your own
Friday, June 30	
Morning	Breakfast on your own
8:30 AM - 12:00 PM	Home visits with clinical team
12:00 – 1:30 PM	Lunch at Hospice Hawaii General discussions with Hospice Hawaii team, if needed
1:30 – 4:00 PM	Back to hotel, rest, play
4:00 PM - ???	To Ken's home in Kaneohe.
Saturday, July 1	
8:00 AM to 5:00 PM	Volunteer training at Hospice Hawaii office Continental breakfast and lunch provided
6:00 PM – 9:00 PM	Relaxed dinner at Ken & Laurel's home
Sunday July 2	
Home	Ken will get you to the airport

（添付資料2）

ボランテイア研修スケジュール
ホスピスハワイ&パリアン
2006年6月28日から7月1日
最新スケジュール（16/6、2006）

目的：

1．在宅ホスピスケアプログラムにおけるボランティア活動の構成要素を明らかにする。
2．ボランティアを養成するための構成要素を明らかにする
3．ホスピスハワイカイルアホーム（ホスピス病床）見学
4．臨床チームメンバーの訪問同行

ホスピスハワイは今回の参加者に研修マニュアルと面接用資料を提供する。

暫定スケジュール

日時	活動
6月27日火曜日 8：45AM	ホノルル国際空港到着 （Ken Zeriが出迎え）
5：30PM	アウトリガー・カヌー・クラブにて夕食
6月28日水曜日 午前中	各自朝食
12：00-3：00PM	ホスピスハワイにて昼食 講義：米国のホスピス　by　Ken Zeri ボランティアプログラム by Clarence Liu
5：30-10：00PM	ホスピスハワイにてボランティア研修クラス見学 軽い夕食は研修の場で提供されます
10：00PM	ホテルに戻る
6月29日木曜日 朝	各自朝食
8：30-11：00AM	ホテルに出迎え後、ホスピスハワイカイルアホーム見学
12：00-3：00PM	ホスピスハワイにて昼食 講義：ボランティアプログラムの詳細　by　Caroline Odo、 （ボランティアコーディネーター）
3：00-4：00PM	参加者の興味のあるテーマについて討議

	Ken, Clarence, Caroline その他必要に応じて他のスタッフも参加
4：00PM	Pau Hana 各自夕食
6月30日金曜日 朝	各自朝食
8：30-12：00PM	臨床チームと在宅同行
12：00-1：30PM	ホスピスハワイにて昼食 必要に応じてホスピスハワイのチームと討議
1：30-4：00PM	ホテルに戻り、休憩
4：00PM	Kaneohe に行く。6：00PM ごろに夕食とする。
7月1日土曜日 8：00-5：00PM	ホスピスハワイにてボランティア研修見学 コンチネンタルブレックファーストとランチはホスピスにて提供
6：00PM-	夕食
7月2日日曜日	日本に戻る

（添付資料4）

A『 ホスピスハワイ ボランティアトレーニングマニュアル 』

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．ホスピスハワイトレーニングプログラムの目的
Ⅲ．なぜ、ホスピスボランティアか
Ⅳ．ホスピスの歴史的背景
Ⅴ．ボランティアコーディネーターからの歓迎の手紙
Ⅵ．ホスピスハワイの概要
Ⅶ．ホスピスハワイの組織図
Ⅷ．ホスピスケアの考え
Ⅸ．ボランティアの役割
Ⅹ．守秘義務のフォーム
ⅩⅠ．患者と家族の義務と権利
ⅩⅡ．疼痛と症状コントロール
ⅩⅢ．死に近づいた時のサインと症状
ⅩⅣ．ボディメカニクスと気をつけること
ⅩⅤ．心理社会的見解
ⅩⅥ．文化的な視点
ⅩⅦ．死別
ⅩⅧ．スピリチュアルの問題

A.『 ホスピスハワイ ボランティアトレーニングマニュアル 』

Ⅰ．はじめに 〔 概要 〕

NA HOA MALAMA 「友人として看取る」

ホスピス・ケアの基本理念

地域型ホスピスであるホスピス・ハワイのケアプログラムは、オアフ医療保健制度下で統合され、連携して運営されている。このプログラムは、私たちのホスピス・ケアに対する理念を具現化したもので、現地語で「友人として看取る」を意味する「NA HOA MALAMA」と呼ばれている。

包括的学際プログラムであるこのホスピス・ケアは、住み慣れた地域において終末期患者とその家族・友人に希望、看取りと慰めを提供するものである。人間の生命はかけがえの無いものであり、愛され、同情されそして尊敬されるのは当然のことである。

人間が生きるうえで苦しみは付きものである。このケアプログラムは、終末期患者の霊的価値観に沿って身体的、感情的そして社会的立場に適した方法で苦痛を和らげることを目指している。健康や精神的成長の喪失により味わう失望や苦痛は自然の流れであり、全ての人々は、固有の霊的信条や表現方法を持つことがある。

ホスピス・ケアの基本は、終末期の患者とその家族や友人間の相互の支援と愛情の機会を提供することである。私たちは、患者とその家族・友人は人生を全うする作業を完結すべき時間を共有すべきと考えている。その作業とは、精神性に移行し、帰属感、目的意識と希望感の高揚である。

ハワイホスピス学際チームメンバーは、終末期患者とその家族・友人間の連帯感を育て、ケアの選択肢を提示し、さらに個人の主体性の確立を助けるために、誠心誠意その任務を遂行することである。

A.『 ホスピスハワイ ボランティアトレーニングマニュアル 』
Ⅲ. なぜ、ホスピスボランティアか 〔 概要 〕

ホスピスボランティアの必要性

１９７０年代のホスピスの形成期には、絶望的になっている死に行く人々に医療チームやボランティアに何ができるのか、などの多くの議論が提起された。ホスピスワーカーが直面する焦燥感，疲労感、ストレスに関する論文や書物が主流でしたが、これも取り越し苦労に終わった。ホスピスの仕事に充実感を覚える者、一方でその場を静かに去る者もいた。

ホスピスワーカーに関してよく耳にする言葉として、
１）人間的に素晴らしい人
２）気の滅入る仕事　　の誤解を解く必要がある。

私たちは特別ではなく、ごく普通の人間である。死、死に行くことを自然の摂理として静かに戦う人々を支援する機会に恵まれていることである。この仕事は気の滅入るものではないが、悲しくて泣きたい時もある。しかし、多くの笑いもある。それにより、肉体的、感情的、霊的、経済的や心理的に起因するどんな痛みも一緒に和らげることができる。

ホスピス・ハワイの一員として、死に行く患者とその家族が最も困難なときに手助けできることに感謝している。与えることよりも得ることのほうが大きいことを経験している。また、死は誰もが通る自然の道であることを学んだ。これにより、使命感と同情の気持ちが培われた。人生で最も意義深いことは、人間関係を紡いでいくことをいつも目のあたりにしている。はかない人生だから人間関係は大切なものである。
生と死の境界線を注視することで、現在を大切に生きる意識が高まる。現状をあまりにも深刻に考えて袋小路に落ち込むより、運命の気まぐれに身を任せるおおらかさに到達することができた。

仕事に精を出すよう激励するのではなく、いい仕事をすることが私たちの任務であり、
いい仕事は自分自身のためになっていく。ホスピス・ハワイの一員である「やさしい家族」に、
患者が最も困難なときに患者のそばに付き添う機会を与えてくれたことに
感謝する。

全ての人々に安らぎを・・・・・
A.『 ホスピスハワイ ボランティアトレーニングマニュアル 』
Ⅸ. ボランティアの役割 〔 概要 〕

ホスピス・ボランティアの役割

最初の患者訪問は常につらいことである。
—) 私を受け入れてくれるだろうか？
—) 何をしたらいいのか？
などの質問はごく自然なことである。自信を失った時には、ホスピス・ケアの専門家があなたをそのチームの一員に選んでくれたことを思い出して下さい。あなたが担当する患者とその家族が望むものを自然体で素直な気持ちで答えるためには、まず飛び込むことから始まる。必要なことは彼らが教えてくれる。あなたが提供できることを彼らに知らせることで、いい関係が自然と生まれるものである。

患者・その家族にとってのボランティア

ボランティアの最も大切な役割は終末期患者とその家族の最期の六ヶ月間を、可能な限の快適さと意義ある人生を全うするための支援である。

1. 誠実さ

自然体であること。静かにし、傾聴し、また細やかな世話などは患者のために必要であるが、あなたらしさが大切である。病人は自然に扱われることを望んでおり、これにより、患者は病気で孤立していないことを確認できるのである。接するのは患者本人であり、病ではないのである。

このことは患者の家族にとっても同じことである。ボランティアの役割は友人であり、サポーターであり、管理者や指令者ではない。全ての質問に答えられるよう期待はされていない。医療や専門的な質問には看護師や主治医が的確に答えてくれることを家族や患者が理解していることをすぐにあなたは知るはずである。ボランティアはコミュニケーションの架け橋として存在するのである。この役割は、自分が快適と感じたときに自然に果たすことができる。

2. 看護師(ケースマネジャー)とのコミュニケーション

看護師とボランティア間の明確なコミュニケーションは基本である。二人は最小のチームでお互いを信頼し、また、患者・家族にとっても最も頼りにされている。

定期的に連絡を取り合い、患者・家族の近況をお知らせする。よい関係を作るために、遠慮せず積極的に働きかけることが大切である。

3．家族とのコミュニケーション

ボランティア・スケジュールを家族に明確に伝えることはあなたの義務である。
行き違いや、誤解を避けることができる。最初に、家族の要望や願いを確認し、（患者の様態で変わることもある） それにどのように対応するかを提示することも一案である。訪問するときは前もって電話をかけることも喜ばれる。
あなたのやり方次第で円滑に仕事が進む。

4．信頼性

終末期の患者には不測の出来事が起こりやすいため、頼りにできる人やサービスを前もって知らせておくことは重要である。出来ない事は確約しないで下さい。一刻を争う緊急時には選択肢が限られてくる。外部に連絡することは極めて困難な状況にある。ボランティア活動はあなたにとって活動の一つに過ぎないかもしれないが、患者はあなたの訪問を心待ちにしている。また、主介護人にとっても気晴らしや用事が足せる貴重な時間でもある。

5．傾聴

ボランティアの役割はまず患者や家族の要望に応えることであると忘れないでほしい。たいていは自分が話すよりも聞き手に回ることになる。同じ話を何度となく聞か
されることもある。また、怒り、苛立ち、憎しみへは、あなたの意見は求められてはいません。時として、感情の矛先があなたに向くかもしれませんが、あなたが非難されているわけではありません。

6．秘密保持

患者とその家族を名前で言及するのは、ホスピスケアチームに限って下さい。患者やその家族から打ち明けられた極秘情報はケアプランに関すること意外は内密にし、不安であればケアチームに話すこともできる。誰にも話してはいけないという情報が患者や家族から出た場合には、そのような約束はしないでほしい。適切なケアチームメンバーに伝える必要のある情報かを判断することは患者や家族を保護することになるからである。

7．身体的接触

触れたり触れられたり身体的接触を好む人もいれば、そうでない人もいる。担当する